

2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年10月31日

上場会社名 カンロ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2216 URL https://www.kanro.co.jp/
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 三須 和泰
 問合せ先責任者（役職名） 取締役常務執行役員（氏名） 阿部 一博（TEL）03（3370）8811
 CFO財務・経理本部長
 四半期報告書提出予定日 2022年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2022年12月期第3四半期の業績（2022年1月1日～2022年9月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	17,927	20.8	1,295	151.5	1,355	148.4	936	114.0
2021年12月期第3四半期	14,842	—	514	—	545	—	437	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2022年12月期第3四半期	66.60		—					
2021年12月期第3四半期	31.03		—					

（注）1. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、2021年12月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。これにより、2021年12月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 2022年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

（2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	20,807	58.3	12,126	58.3	12,126	58.3
2021年12月期	21,200	55.4	11,750	55.4	11,750	55.4

（参考）自己資本 2022年12月期第3四半期 12,126百万円 2021年12月期 11,750百万円

（注）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、2021年12月期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	15.00	—	25.00	40.00
2022年12月期	—	25.00	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	—	—	17.50	—

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2. 2022年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。2022年12月期第2四半期末の1株当たり中間配当金につきましては、当該株式分割前の実際の配当金を記載し、2022年12月期（予想）の年間配当金合計は「—」と記載しております。株式分割前換算した場合の2022年12月期（予想）の1株当たり期末配当金は35円となり、1株当たり年間配当金は60円となります。

3. 2022年12月期期末配当金（予想）の内訳 普通配当12円50銭 記念配当5円00銭（創業110周年記念配当）

3. 2022年12月期の業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,950	15.6	1,830	45.8	1,900	47.1	1,270	44.5	91.57

- (注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有
 2. 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率については、2021年12月期に当該会計基準等を適用したと仮定して算定した増減率を記載しております。
 3. 2022年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。株式分割を考慮しない場合の2022年12月期の通期の1株当たり当期純利益は183円14銭となります。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年12月期3Q	15,315,604株	2021年12月期	15,315,604株
2022年12月期3Q	1,446,072株	2021年12月期	1,213,268株
2022年12月期3Q	14,060,767株	2021年12月期3Q	14,102,548株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

- ※ 1. 2022年7月1日を効力発生日として普通株式1株を2株の割合で株式分割を実施したため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。
 2. 期末自己株式数には、株式会社日本カストディ銀行（信託口）の保有する当社株式（2022年12月期第3四半期523,800株、2021年12月期247,200株）が含まれております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、[添付資料] 2ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、T D n e t で本日開示するとともに、当社ホームページにも掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	P. 3
(1) 四半期貸借対照表	P. 3
(2) 四半期損益計算書	P. 5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	P. 6
(継続企業の前提に関する注記)	P. 6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 6
(会計方針の変更)	P. 6
(収益認識関係)	P. 6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前年同四半期累計期間及び前事業年度との比較・分析を行っております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（以下、「当第3四半期」）におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染「第6波」・「第7波」に見舞われるも、ウィズコロナの新たな段階への移行と共に経済社会活動の正常化が進み、個人消費も緩やかな持ち直しの動きが見られました。しかしながら、長期化するウクライナ情勢等の影響による原材料価格の上昇や、世界的金融引締め下において金融資本市場の変動等のリスクが顕在化し、急激な円安など先行き不透明な状態が継続しています。

キャンディ市場におきましては、飴カテゴリーは、コロナ禍による人流の減少・マスク生活常態化による消費落ち込みからは回復し、のどケア需要の高まりもあり前年比増加に転じました。昨年5月より成長基調に回帰したグミカテゴリーは依然好調に推移しており、前年同期比で大きく伸長し、キャンディ市場全体の拡大を牽引しております。

このような事業環境の下、2022年は「中期経営計画2024」の初年度として、本年2月に策定した企業パーパス「Sweeten the Future 心がひとつぶ、大きくなる。」の下、3つの事業戦略である「価値創造」・「ESG経営」・「事業領域の拡大」を着実に推し進めた結果、当第3四半期の売上高は、前年同期比30億84百万円（20.8%）増収の179億27百万円となりました。

飴は、堅調なグルメカテゴリーに加えて、需要拡大によるのど飴カテゴリーの伸びにより袋形態が増加すると共に、コロナ禍で低迷していたコンパクトサイズ・スティック形態も増加に転じ、一部商品の価格改定も相俟って前年同期比9億23百万円（11.3%）増収の91億18百万円となりました。製品別では、昨年9月に新味カフェラテが加わった「金のミルクキャンディ」や「ノンシュガーのど飴」シリーズが好調に推移しました。グミは、発売20周年を迎えテレビコマーシャルを実施した主力ブランド「ピュレグミ」が大幅に伸長し、「キャンデミーナグミ」、昨年発売の新製品「マロッシュ」（マシュマロ商品）の増加と相俟って、前年同期比21億38百万円（35.0%）増収の82億46百万円となりました。素材菓子は、「かろやかし」シリーズとしてリニューアルを進めており、苦戦が続いているものの、前年同期比22百万円（4.1%）増収の5億61百万円となりました。

利益面では、一部価格改定を実施するも原材料価格や工場諸経費の増加により変動費率は上昇いたしました。大幅な増収による限界利益の増加と生産性向上により、売上総利益は前年同期比13億58百万円（24.4%）増益の69億19百万円となりました。

営業利益は、テレビコマーシャル実施による広告宣伝費の増加、人員増等による人件費の増加が有るものの、前年同期比7億80百万円（151.5%）増益の12億95百万円、経常利益は前年同期比8億9百万円（148.4%）増益の13億55百万円となりました。

また、四半期純利益は前年投資有価証券売却益の反動もあり、前年同期比4億98百万円（114.0%）増益の9億36百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ3億92百万円（1.9%）減少し208億7百万円となりました。

これは主に現金及び預金が3億96百万円、商品及び製品が4億42百万円増加しましたが、売掛金が11億65百万円減少したことによるものです。

負債の部は、前事業年度末に比べ7億68百万円（8.1%）減少し86億81百万円となりました。

これは主に買掛金が1億67百万円増加しましたが、未払法人税等が4億37百万円、未払費用が3億14百万円、未払金が2億22百万円減少したことによるものです。

純資産の部は、前事業年度末に比べ3億75百万円（3.2%）増加し121億26百万円となりました。

これは主に四半期純利益9億36百万円の計上と配当金3億58百万円の支払、自己株式2億19百万円の取得によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期の通期業績予想につきましては、2022年10月31日付「通期業績予想及び期末配当予想の修正（創業110周年記念配当）に関するお知らせ」で発表したとおりであります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,159,716	2,555,760
売掛金	6,849,168	5,683,883
商品及び製品	643,698	1,086,358
仕掛品	42,675	82,416
原材料及び貯蔵品	288,581	335,127
その他	160,079	203,629
流動資産合計	10,143,919	9,947,175
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,928,107	6,991,231
減価償却累計額	△3,767,034	△3,962,346
建物(純額)	3,161,072	3,028,884
機械及び装置	12,976,990	13,306,411
減価償却累計額	△9,198,081	△9,568,763
機械及び装置(純額)	3,778,909	3,737,647
土地	1,497,662	1,497,829
その他	2,739,327	2,771,835
減価償却累計額	△2,038,428	△2,071,773
その他(純額)	700,898	700,062
建設仮勘定	32,366	92,822
有形固定資産合計	9,170,910	9,057,247
無形固定資産	202,761	226,170
投資その他の資産		
投資有価証券	148,944	145,735
繰延税金資産	1,106,665	991,137
その他	427,051	439,923
投資その他の資産合計	1,682,661	1,576,796
固定資産合計	11,056,333	10,860,214
資産合計	21,200,252	20,807,390

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,932,594	2,100,446
短期借入金	500,000	500,000
未払金	952,293	729,405
未払費用	1,969,919	1,654,922
未払法人税等	472,912	35,156
賞与引当金	713,154	835,356
役員賞与引当金	83,500	91,312
その他	400,959	205,180
流動負債合計	7,025,333	6,151,779
固定負債		
退職給付引当金	2,181,480	2,254,039
役員株式給付引当金	165,334	184,202
その他	77,588	91,216
固定負債合計	2,424,403	2,529,458
負債合計	9,449,737	8,681,237
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,864,249	2,864,249
資本剰余金	2,560,876	2,577,892
利益剰余金	6,956,494	7,534,275
自己株式	△663,536	△883,357
株主資本合計	11,718,084	12,093,060
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	32,522	32,392
繰延ヘッジ損益	△91	699
評価・換算差額等合計	32,431	33,091
純資産合計	11,750,515	12,126,152
負債純資産合計	21,200,252	20,807,390

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)
売上高	14,842,901	17,927,618
売上原価	9,281,508	11,008,129
売上総利益	5,561,392	6,919,488
販売費及び一般管理費	5,046,397	5,624,301
営業利益	514,995	1,295,187
営業外収益		
受取利息	86	94
受取配当金	3,177	2,818
損害金収入	12,474	37,705
売電収入	8,620	8,196
その他	13,986	16,745
営業外収益合計	38,346	65,560
営業外費用		
支払利息	2,606	877
売電費用	4,127	4,039
その他	951	179
営業外費用合計	7,685	5,096
経常利益	545,656	1,355,650
特別利益		
固定資産売却益	-	934
投資有価証券売却益	94,905	3,605
特別利益合計	94,905	4,540
特別損失		
固定資産除却損	5,697	319
減損損失	19,686	16,217
特別損失合計	25,383	16,537
税引前四半期純利益	615,179	1,343,654
法人税、住民税及び事業税	268,318	291,900
法人税等調整額	△90,746	115,236
法人税等合計	177,571	407,137
四半期純利益	437,607	936,516

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用により、従来は販売費及び一般管理費として計上しておりました代理店手数料等を売上高から控除する方法等に変更しております。

当該会計方針の変更は、原則として遡及適用され、前年四半期及び前事業年度については遡及適用後の四半期財務諸表及び財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第3四半期累計期間の売上高は2,797,008千円減少し、売上原価は1,485千円増加し、販売費及び一般管理費は2,801,058千円減少し、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ2,564千円増加しております。また、前事業年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は23,146千円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、菓子食品事業の単一セグメントであり、顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
飴	8,195,389	9,118,809
グミ	6,107,938	8,246,269
素材菓子	539,573	561,781
その他	—	758
顧客との契約から生じる収益	14,842,901	17,927,618
外部顧客への売上高	14,842,901	17,927,618

(注) 「その他」は、食品以外の雑貨類であります。